

- ・げんきな子
- ・かんがえる子
- ・なかよくする子
- ・がんばる子



令和4年5月30日  
 港区立中之町幼稚園  
 園長 大橋 美都子

<http://nakanochō-kgminato-kyed.jp/>

多様な動き

園長 大橋 美都子

5月末には真夏日の日を観測するなど、暑くなる日も多くなってきました。

先日は久しぶりに新宿御苑への親子遠足を実施でき、緑豊かな自然の中で親子、保護者同士の親睦も深まった様子で大変うれしく思います。

さて、幼児期に体を動かすことが重要である、ということはみなさまご存じのことだと思います。幼児期は運動機能が急速に発達する時期であり、この時期に運動刺激を与えて体内に様々な神経回路を張り巡らせていくことが大切です。神経回路が発達すると、普段の生活に必要な動きはもちろんのこと、とっさの時に身を守る動きや将来的にスポーツに結び付く動きなど基本的な動きを多様に身に付けやすくなります。幼児期に経験する基本的な動きの例として、「体のバランスをとる動き(立つ・座る・回る・転がる・寝ころぶ・起きる・渡る・ぶら下がる)」、「体を移動する動き(歩く・走る・はねる・跳ぶ・登る・下りる・這う・よける・すべる)」、「用具などを操作する動き(持つ・運ぶ・投げる・捕る・転がす・蹴る・積む・こぐ・掘る・押す・引く)」などが挙げられています。このように様々な種類の動きを経験することが大切なのです。また、同じ「歩く」でも速く歩く・ゆっくり歩く・大股で歩く・後ろ向きで歩く…などいろいろな歩き方があります。このように一つの動きでもバリエーションはたくさんあります。「多様な動き」とは動きの種類(レパートリー)とバリエーションの多様さの両方を意味するのです。しかも、幼児にはトレーニング的に経験させるのではなく、自発的に様々な遊びの中で経験することが重要です。幼稚園では遊びの中で様々な動きが体験できるよう、実態に合わせて環境や教材を工夫していきます。ご家庭でも、経験している動きに偏りはないか、経験しづらい動きはないかなど、ぜひ意識してみてください。



頭の上、股の間でラグビーボールをパス!



中之町まつりを楽しみしている子どもたち。  
ちょうちんが祭りの気分を盛り上げます。



新しい幼稚園の正門付近。  
池もできるんですよ!